

目次

米原市スポーツ推進計画
スポーツコミュニティ まいばら
～スポーツでつながるまちを目指して～

実施計画
(第4期実施状況 進行管理表)



平成30年(2018年)3月

米原市教育委員会

1 米原市スポーツ推進計画実施計画について.....	1
(1) 実施計画策定の趣旨.....	1
(2) 実施計画の期間.....	1
(3) 実施計画の進行管理.....	2
(4) 実施計画の運用.....	2
(5) 数値目標.....	3
(6) その他.....	3
(7) 推進計画の体系.....	4
(8) 実施計画の見方.....	5
2 評価.....	6
(1) 各施策に対する評価一覧.....	6
(2) 総括.....	7
3 実施計画(兼実施状況、進行管理表).....	9
(1) 子どものスポーツ活動の推進.....	9
(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進.....	13
(3) 地域スポーツ活動の充実.....	18
(4) スポーツを身近に楽しめる環境づくり.....	23
(5) 米原らしさを生かしたスポーツの推進.....	27

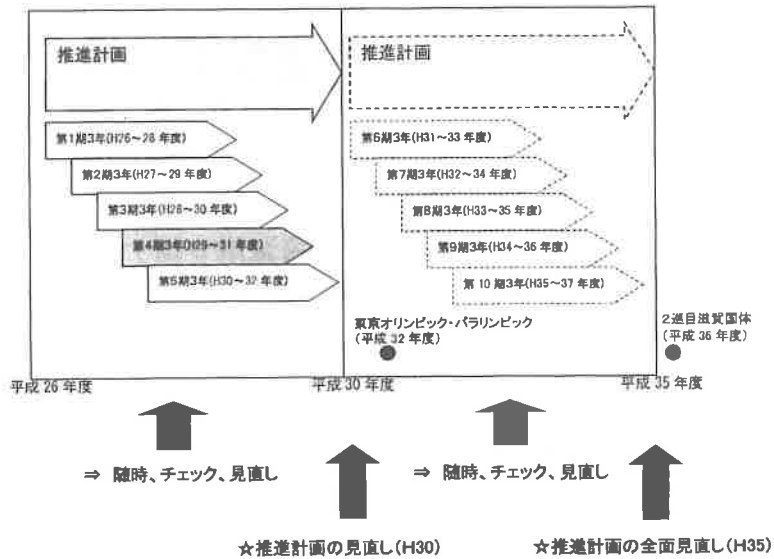
1 米原市スポーツ推進計画実施計画について

(1) 実施計画策定の趣旨

この実施計画は、平成 26 年 3 月に策定した米原市スポーツ推進計画が掲げる目指すべき将来像「希望と元気あふれる スポーツコミュニティ まいばら」を実現するため、推進計画で示す施策の方向に沿って取り組む事業について、事業概要と実施時期を明らかにした短期計画として策定し、事業の着実な実施を目指します。

(2) 実施計画の期間

推進計画で示した 5 つの基本方針に向けて施策を展開するため、年度別に具体的事業の概要と実施年度を明らかにし、毎年度の取組の指針とします。計画期間は 3 年間で毎年度点検および見直しを行います。

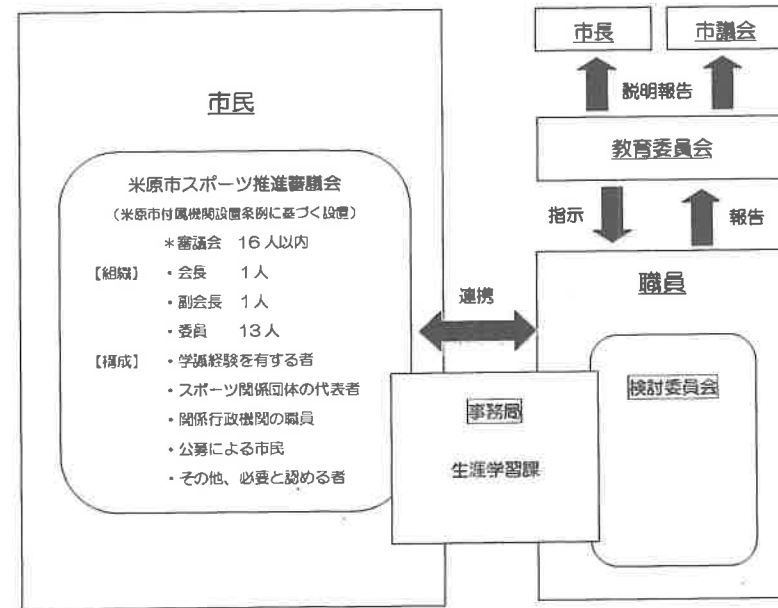


(3) 実施計画の進行管理

米原市スポーツ推進計画および実施計画の進行管理に当たっては、米原市スポーツ推進審議会と米原市が、その役割を担います。

審議会がスポーツ推進計画の進捗状況を確認し、指標の達成状況や、市のスポーツ施策の取組状況に応じて、市に施策提言などを行います。

◆進行管理体制のイメージ



(4) 実施計画の運用

社会経済情勢の変化や財政状況、総合計画等と整合を図りながら、毎年度ローリング方式により進捗状況の確認や評価を行い、その結果を基に、中間年度の平成 30 年に見直しを行います。

総合的かつ計画的に事業を推進するため、毎年度の取組の指針として、この実施計画を用います。

(5)数値目標

市が実施する施策や事業の達成度を市民に分かりやすく示すため、推進計画に掲げる指標に対して、具体的な施策単位で可能な範囲で目標を掲げています。

現状値は、前年度の実績値またはその直近の数値とし、目標値との比較ができるようになっています。

(6)その他

実施計画の推進については、庁内各課の連携により検討組織を設置し、現状や課題を共有しながら事業の実施に努めます。実施計画に記載する所属名は、各事業を所管する所属名を記載しています（課内室名の記載は省略）。

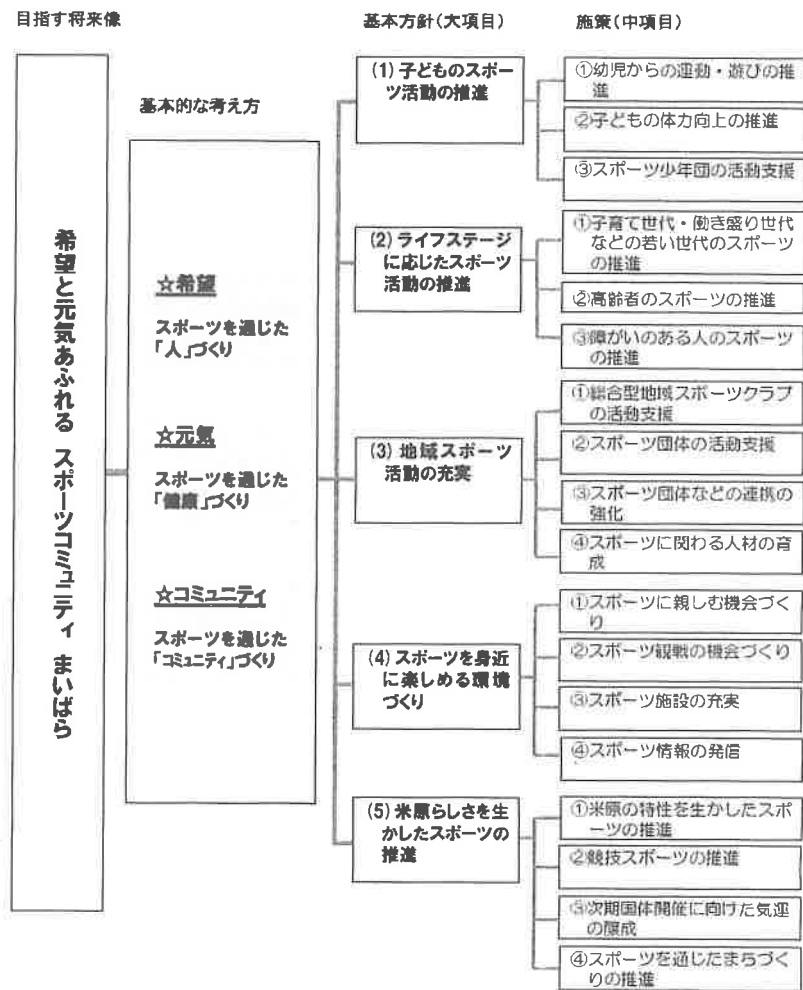
◆庁内の連携イメージ

米原市のスポーツ施策を進めていくため、庁内関係課の連携が不可欠です。

スポーツ、健康、子育て、福祉、観光、学校教育、地域振興など、関係課がスポーツ関連施策についての情報の共有に努めるとともに、連携を強化しスポーツ施策の推進を図ります。



(7)推進計画の体系



(8)実施計画の見方

本実施計画においては、「基本方針」を「大項目」、それぞれの「施策」を「中項目」、施策ごとにある「施策の方向」を「小項目」と記述しています。

実施計画シートの具体的な内容（施策の方向、取組内容、進捗状況、スケジュール、個別指標、評価等）については、以下のような表に整理しています。

【新規事業】

■取組内容、進捗、スケジュール（例）

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29	H30	H31	担当 部署
● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	生涯学 習課
		● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	● ● ● ●	

【進捗】
 施策の方向性、取組内容から、進捗状況を次の4段階で評価
 A:計画以上の取組を完了（進捗として101%以上）
 B:計画の取組を完了（計画通りの進捗）
 C:計画の取組が一部未完了（進捗として70~99%）
 D:計画の取組が未完了（進捗として70%未満）

【スケジュール】
 平成29年度以降の事業の取扱い
 ・「新規」「継続」「拡大」「拡充」「廃止」「中止」等

■個別指標（例）

指標		H28	H29	H30	H31	
スポーツ少年団の団員数	数値目標(a)	480人	480人	480人	480人	生涯学 習課
	実績数値(b)	490人				
	達成率(c)	102.1%				

【中項目に対する個別指標】

■評価の内容（例） *行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価

	評価
●	●

行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価

【評価】
 施策の方向性、取組内容、進捗状況から、次の5段階で評価
 5:目標以上の効果があった
 4:目標どおりの効果があった
 3:一定の効果があった
 2:取組・効果が十分でない
 1:取組を見直す必要がある

2 評価

(1)各施策に対する評価一覧

各種施策の評価を行った結果、以下のとおりとなりました。

番号	大項目 (基本方針)	中項目 (施策)	評価	担当部署
1	子どものスポーツ活動の推進	幼児からの運動遊びの推進	3	生涯学習課、保育幼稚園課 健康づくり課、学校給食課
2		子どもの体力向上の推進	3	学校教育課、生涯学習課
3		スポーツ少年団の活動支援	3	生涯学習課
4	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	子育て世代・働き盛りの若い世代のスポーツの推進	3	生涯学習課、健康づくり課
5		高齢者のスポーツの推進	3	生涯学習課、くらし支援課
6		障がい者のスポーツの推進	3	社会福祉課、生涯学習課
7	地域スポーツ活動の充実	総合型地域スポーツクラブの活動支援	3	生涯学習課
8		スポーツ団体の活動支援	3	生涯学習課、自治振興課
9		スポーツ団体などの連携の強化	1	生涯学習課
10		スポーツに関わる人材の育成	3	生涯学習課
11	スポーツを身近に楽しめる環境づくり	スポーツに親しむ機会づくり	3	生涯学習課
12		スポーツ観戦の機会づくり	3	生涯学習課
13		スポーツ施設の充実	3	生涯学習課、防災危機管理課
14		スポーツ情報の発信	3	生涯学習課
15	米原らしさを生かしたスポーツの推進	米原の特性を生かしたスポーツの推進	3	生涯学習課
16		競技スポーツの推進	3	生涯学習課
17		次期国体開催に向けた機運の醸成	3	生涯学習課
18		スポーツを通じたまちづくりの推進	3	生涯学習課、歴史文化財保護課 自治振興課

【評価】
 施策の方向性、取組内容、進捗状況から、次の5段階で評価
 5:目標以上の効果があった
 4:目標どおりの効果があった
 3:一定の効果があった
 2:取組・効果が十分でない
 1:取組を見直す必要がある

(2)総括

はじめに

米原市スポーツ推進計画における実施計画（第4期実施状況／進行管理表）は、計画の現状把握と進行管理をするためのものであり、事業が進んでいくことをチェックするツールでもあります。担当課だけでなく、市民や事業者を含めたスポーツに関わる多様な主体が連携し、「希望と元気あふれるスポーツコミュニティ」実現への道程を示すものであるため、是非、多くの方々のご関心と意見提案等をいただければ幸いです。

1. 平成29年度の状況について

第3実施計画に基づく1年間の事業の報告を受けて、実施状況および進行状況を把握するとともに、現状の課題を整理するため、5つの方針ごとに概観していきます。

(1) 子どものスポーツ活動の推進…「①幼児からの運動遊びの推進」および「②子どもの体力向上の推進」、「③スポーツ少年団の活動支援」は3という評価で一定の効果はありましたが、「②子どもの体力向上の推進」の代表指標である子どもの体力・運動能力テストの体力合計点が、平成28年度において全国平均を超えた女子も平成29年は全国平均を下回る結果となっています。身体を使って遊ぶことへの関心や親しみ、運動量の増加に向けた取組の充実が必要です。

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進…「①子育て世代・働き盛りの若い世代のスポーツの推進」、「②高齢者のスポーツの推進」および「③障がい者のスポーツの推進」の全ての評価は3です。成人のライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会の確保や動機付けのために、総合型地域スポーツクラブやスポーツ関係団体との連携、市民のスポーツ等に対するニーズに応える教室メニュー等の充実・開発を期待します。

(3) 地域スポーツ活動の充実…「①総合型地域スポーツクラブの活動支援」、「②スポーツ団体の活動支援」、「④スポーツに関わる人材の育成」の評価は3で、「③スポーツ団体などの連携の強化」の評価は1です。スポーツ発信拠点機関について、平成29年度に設立を予定していましたが、協議がまとまらなかったことを受けて、その在り方や方向性を協議する必要があります。併せて二巡目滋賀国民体育大会に向けて、選手や各種イベントや大会を支える人材の育成を図る仕組みや仕掛けづくりが必要です。

(4) スポーツを身近に楽しめる環境づくり…「①スポーツに親しむ機会づくり」、「②スポーツ観戦の機会づくり」、「③スポーツ施設の充実」、「④スポーツ情報の発信」の評価は全て3です。出前講座等の開催によりスポーツ親しむ機会づくりは行われ一定の成果はありますが、ニュースポーツ等のルール等を習得し、市民自らがニュースポーツ等のスポーツに親しむ動機付けとなるような取組を期待します。

(5) 米原らしさを生かしたスポーツの推進…「①米原の特性を生かしたスポーツの推進」、「②競技スポーツの推進」、「③次期国体開催に向けた機運の醸成」、「④スポーツを通じたまちづくりの推進」とも評価は全て3です。国民体育大会の実施に当たり、準備段階から市民や自治会、関係団体を巻き込んだ仕組みや仕掛けづくりが行われることを期待します。

今後に向けて

2. 今後に向けて

平成26年に米原市スポーツ推進計画を策定し、スポーツを通した「人」づくり、スポーツを通した「健康」づくり、「コミュニティづくり」を基本方針にもち、実施計画が進行中です。現在の実施計画の課題と今後の展望を整理します。

まず、子どものスポーツ活動の推進について、昨年度は指標の一つである運動能力テストにおいて滋賀県平均値を上回る項目がみられましたが、今年度は全国平均を下回る結果となりました。学童期だけでなく幼児期からの運動遊びに対する継続的な取り組みが重要であると考えられます。幼児期からの主体的な運動の実践は、将来の体力の維持・向上だけでなく、心の成長に与える影響も大きいと言われています。子どもだけでなく保護者の皆さまの意識の向上も含めて長期的な視野で取り組んでいく必要があります。

ライフステージに応じたスポーツ活動の推進については、高齢者では通信型ウォーキング事業などが新たな取り組みとして設定されています。インターネットを通じて日々の運動実践を評価してもらえるなど、これからの時代を見据えたシステムであり、今後の普及や活用に期待します。また、ノルディック・ウォーキングの実践者を市内でみかけるようになり、「歩楽ん教室」の参加者数も増えています。また、「気軽にやってみよう。ニュースポーツ講座」の参加者数が増えており、一つの成果といえるでしょう。課題としてスポーツ少年団の団員数は減少傾向であり、体育協会の加盟人数も減少傾向です。現状の制度では限界があり、市民のニーズを反映したうえで新たな組織体制を構築していく必要があると考えられます。

地域スポーツ活動の充実の項目では、課題が多く散見されます。総合型地域スポーツクラブ会員数の減少傾向、総合型地域スポーツクラブとスポーツ少年団の連携の推進、自治会におけるスポーツの推進、スポーツに関わる人材の育成などです。総合型地域スポーツクラブではどんなスポーツが行えるのか、入会するメリットは何なのか、どこで行えるのかなど情報が市民に十分に行き届いていない可能性も考えられます。引き続き、情報発信の工夫を行っていく必要があります。また、市内の各種スポーツ団体において、指導者不足が問題になっており、指導者の育成と新たな指導者の発掘の両面で取り組む必要があります。また、スポーツ発信拠点機関の在り方について十分に協議する必要があります。

スポーツを身近に楽しめる環境づくり・米原らしさを活かしたスポーツの推進では、スポーツ環境の整備や東京オリンピック・パラリンピックのニュージーランドを相手国としたホストタウン事業、トップアスリートとの交流事業などが行われ活性化しています。

全体を通して、評価はほとんどが“3”であり、一定の効果はあるものの目標達成に向けた取り組みの見直しが必要です。米原市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査の結果等を十分に検証し、市民のニーズを踏まえながら、多くの項目で目標を達成できるように推進する必要があります。また、スポーツや運動には体力の維持・増進効果だけでなく、心の健康増進、社会参加への機会、地域の活性化、教育面の効果、人とのつながりを生み出すことなど多様な効果があります。2020年東京オリンピックや2024年の滋賀県国民体育大会（国民スポーツ大会）を契機に運動・スポーツへの価値観をさらに醸成していくことが重要です。

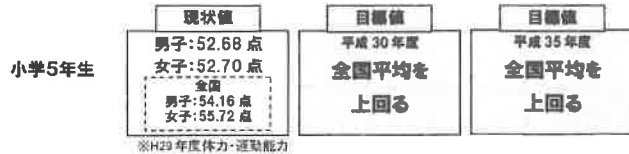
米原市スポーツ推進審議会
会長 谷村 敏博
副会長 多胡 陽介

3 実施計画（兼実施状況、進行管理表）

(1) 子どものスポーツ活動の推進

■指標

子ども(小学5年生)の体力・運動能力テストの体力合計点



大項目(基本方針)	(1) 子どものスポーツ活動の推進
中項目(施策)	① 幼児からの運動・遊びの推進
担当部署	生涯学習課、保育幼稚園課、健康づくり課、学校給食課

■現状・問題点

- ▶ 幼児期からのスポーツに親しむ機会づくりを推進・支援する必要があります。
- ▶ スポーツ活動を推進していく前段階として、乳幼児期の体づくりは重要です。必要な時期に必要な栄養素を取り入れること、それを取り入れることができるよう支援していく（基本的な食習慣の確立）ことが必要であり、正しい知識を本人、保護者等が習得することが求められています。
- ▶ 健康的な食生活を乳幼児期から身につけるため、給食献立表の活用のほか、栄養士による保護者対象講演会の実施や、給食参観（給食試食）を実施しています。
- ▶ 東部給食センターにおける食育推進事業として市民を対象とした親子料理教室の実施、小学校の親子活動としての料理教室、中学校の家庭科料理実習、校外活動としての施設見学、各種団体の研修会等としての調理研修室の利用があります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目(施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29	H30	H31	担当部署
親子でスポーツ(運動・遊び)に親しむ機会づくり	出前講座「エンジョイ♪まいばらっこ」の開催	A	継続	B	廃止	生涯学習課
	公民館講座の親子活動 風草の風文化センター事業など	B	継続	B	継続	継続
幼児期の身体活動の促進	「幼児期運動指針ガイドブック」の普及 県主催園職員向け研修会開催 身体測定の実施	B	継続	B	継続	保育幼稚園課
	県主催運動能力調査参加 (H26 いぶき認定こども園、H27 いぶき認定こども園、米原中保育園、H28 山東幼稚園)	B	廃止			

小項目(施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29		H30	H31	担当部署
			進捗	新規・継続・拡大・廃止・進捗等			
	園外保育の実施による戸外での体を動かす機会の提供		新規	B	継続	継続	
幼児期からの健康的な食生活の習慣化促進	7か月児もぐもぐ教室	B	継続	B	継続	継続	健康づくり課
	母子保健に関する出前講座 「子どもの元気な体づくり(母乳食編)」 「子どもの元気な体づくり(幼児食編)」 「すくすく子育て」「思春期からの生活習慣病予防」 対象：市民、園保育士など	B	継続	B	継続	継続	
	食育推進事業 母子保健の食育講座	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	スポーツ講演会の開催	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	伊吹山登山における栄養講習会の実施	D	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	各園において給食献立表配布 「今日の給食」の掲示 給食参観の実施(保護者の給食試食) 保護者向け講演会開催	B	継続	B	継続	継続	保育幼稚園課
	食育推進事業 親子活動給食見学、親子料理教室(年間2回) 一般市民開放(サロン等)	B	継続	B	継続	継続	学校給食課
	学校の食育活動 親子クッキング(給食の調理)、PTA 研修(親子クッキング) センター見学、試食会、学校の家庭科料理実習	B	継続	B	継続	継続	
	食育の拠点としての東部給食センター利用(健康づくり課) 食育親子料理教室 「簡単手作りおやつ教室」、「学校給食を作ろう」	B	廃止				

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
出前講座「エンジョイ♪まいばらっこ」の参加者数	数値目標(a)	250人	250人			生涯学習課
	実績数値(b)	326人	211人			
	達成率(C) (b/a)	130.4%	84.4%			
肥満度が「やや太りすぎ」「太りすぎ」「やせすぎ」である3～5歳児の割合(肥満度-20以下または20以上)(全国平均2.9%)	数値目標(a)	1.8%以下	2.5%以下	2.5%以下	2.5%以下	保育幼稚園課
	実績数値(b)	1.8%	1.4%			
	達成率(C) (b/a)	100%	100%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

- ▶ 幼児期からの子どもの体力増進に向け、出前講座を開催しました。
- ▶ 食育推進事業においては、妊娠期(胎児期)からのライフステージに応じた食育の推進を行っており、積極的に学校や保護者などに働きかけを行い、出前講座等により啓発を行っています。
- ▶ 肥満度が「やや太りすぎ」「太りすぎ」「やせすぎ」である3～5歳児の割合が1.4%と、全国平均より優れて数値となっています。

評価	3
----	---

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(1)子どものスポーツ活動の推進
中項目（施策）	②子どもの体力向上の推進
担当部局	学校教育課、生涯学習課

■現状・問題点

- 子どもたちのスポーツ離れが進み、体力・運動能力の低下がみられ、様々な機会にスポーツに親しむ機会づくりや体力向上に向けた取組が求められています。
- 体力向上に向けて、小中学校における体育科授業の更なる充実が求められています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 事項・継続・拡大・廃止・進捗等				担当 部局
			H29	H30	H31		
子どもを対象にしたスポーツの 機会の充実	小学校での健やかタイムの実施 （アクティブチャイルドプログラムの活用）	B	継続	B	継続	継続	学校教育課
	子どもの健康増進プログラムの実施	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	スポーツなど様々な活動とおした異年齢交流 年間とおした放課後キッズの実施	B	廃止				子育て支援課
	カヌー体験事業 カヌー貸出事業、琵琶湖マリンフェスタ	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付 スポーツ教室など	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツアドバイザーによる放課後児童クラブ への派遣	A	継続	B	継続	継続	
小中学校における 体育授業の充実	県・市主催の各研修会への積極的な参加	B	継続	A	継続	継続	学校教育課
	市専門部会(体育科)における研修・研究の推進	B	継続	B	継続	継続	教育課
トップアスリート と子どもの交流の 場づくり	トップアスリート交流事業 卓球教室 ジュニアホッケー選手育成事業	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
丈夫な体をつくる 食育の推進	スポーツ講演会の開催(再掲)	B	継続	B	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標			H28	H29	H30	H31
			子ども（小学5年生） の体力・運動能力テ ストの体力合計点	数値目標(a)	男	53.92
	全国平均	女	55.54	55.72		
	県平均	男	53.41	53.72		
		女	53.84	54.53		
	実績数値(b)	男	51.55	52.68		
		女	54.70	52.7		

	達成率 (%) (b/a)	男	95.60	98.1		
		女	98.49	96.6		
スポーツアドバイザー による放課後児童クラ ブの参加者数	数値目標(a)		120人	120人	120人	120人
	実績数値(b)		335人	366人		
	達成率(%) (b/a)		279.1%	280.0%		

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

- 子どもの体力向上に向けた取組としては、スポーツ少年団への加入促進、総合型地域スポーツクラブへの支援などを行っています。
- 平成27年度から全9小学校において実施していた10分間運動は各校の弾力的な取組となりましたが、継続的に7小学校で実施され、2小学校においても断続的に実施されています。
- 総合型地域スポーツクラブが行うスポーツ・運動教室の支援を行い、子どもにスポーツ等に親しむ機会を提供しました。引き続き、スポーツクラブが行うスポーツ教室等の支援を行い、子どもの体力向上の推進を行います。
- 体力・運動能力テストの体力合計点については、平成28年度は女子が滋賀県平均を上回りましたが、今年度にも全国平均以下に転じ、男女ともに全国および滋賀県平均を下回る結果となりました。
- トップアスリート交流事業では、競技スポーツのトップレベル選出とその技術・意識にふれる機会と、スポーツマンシップを身近に感じる機会を創出し、子どもたちがスポーツに取り組む機会、意識の向上を図りました。

評価

3

5:目標以上の効果があった 4:目標と通りの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(1)子どものスポーツ活動の推進
中項目（施策）	③スポーツ少年団の活動支援
担当部局	生涯学習課 d

■現状・問題点

- 少子化、子どものスポーツ離れなどにより団員の減少が続いており、指導者についても不足気味となっています。
- スポーツ少年団と各種スポーツ団体の連携により、スポーツ少年団に対する理解、PRなどの活動を行う必要があります。
- 各単位団も本来のスポーツ少年団が果たすべき役割（勝利至上主義に走らず、スポーツの楽しさを味わう生涯スポーツの機会の提供）を再認識する必要があります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 事項・継続・拡大・廃止・進捗等				担当 部局
			H29	H30	H31		
スポーツ少年団活動 への加入促進の支 援	スポーツ少年団補助金の交付	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	団員募集チラシ作成、配布 取りまとめ	B	継続	B	継続	継続	
	機関誌の作成、発行	B	継続	B	継続	継続	

	文字放送、広報 広報特策として各単位団の紹介	B	継続	B	継続	継続	
スポーツ少年団 とスポーツ団体 との連携促進	総合型地域スポーツクラブとの連携 の検討	B	継続	B	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
スポーツ少年団の団員数	数値目標(a)	480人	480人	480人	480人	生涯学 習課
	実績数値(b)	490人	438人			
	達成率(c)	102.1%	91.3%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>>少子化・子どものスポーツ離れ等により、団員の減少が続いているなか、団員確保のための新たな取組を検討する必要があります。</p> <p>>スポーツ少年団と各種スポーツ団体の連携、さらには、スポーツ少年団に対する理解、PR等の活動が不足しています。</p> <p>>スポーツ少年団の伊吹山登山については、天候不良のため、登山を中止し、ニュースポーツ・ドッジビーをし、各単位団の団員の交流を深めました。また、栄養講習会を開き、運動以外のことを学びました。</p>	3	評価
---	---	----

5:目標以上の効果があった 4:目標と同等の効果があった 3:一定の効果があった 2:取組-効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

■指標

成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率



※H25年市民アンケート

※内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」に基づく
文部科学省集計(H21)

大項目(基本方針)	(2)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
中項目(施策)	①子育て世代・働き盛りの若い世代のスポーツの機会づくり
担当部局	生涯学習課、健康づくり課

■現状・問題点

- >成人の週1回以上のスポーツ実施率は、国や県の水準を下回っており、子育て世代や働き盛り世代の若い世代は、子育てや仕事を理由に運動やスポーツを実践できていない現状があります。
- >健康づくりの面からも、運動やスポーツに親しむことが大切であり、気軽にスポーツに取り組める環境づくりが必要となっています。
- >定期的な運動(有酸素運動)は①肥満の予防・解消、②多くが肥満発症の危険因子となる生活習慣病の予防に効果があるため、運動習慣を持つ人を増やしていく必要があります。
- >健康づくり啓発の手段として、出前講座や健康教育を通じて「健康づくり8か条」の推進が求められています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29	H30	H31	担当 部局
		進捗	新規・継続・拡大・廃止・進捗等			
子育て世代・働き 盛り世代などの若 い世代のスポー ツの機会づくり	スポーツ推進委員によるスポーツ支援 ニュースポーツ体験	B	継続	B	継続	生涯学 習課
	出前講座「気軽にやってみようニュースポ ーツ講座」	B	継続	B	継続	
	体育振興員によるスポーツ支援・自治会 へのスポーツ活動協力依頼	B	継続	B	継続	
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付 (再掲)	B	継続	B	継続	
	スポーツ教室の開催・ノルディック教室の開催 体育協会補助金の交付 体育振興会事業への支援	B	継続	B	継続	
女性のスポーツ参 加機会の拡充	各種団体における女性代表の育成 スポーツ推進委員、スポーツ少年団	B	継続	B	継続	
	スポーツ少年団女性指導者会の開催	C	継続	C	継続	
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付(再掲) 女性対象のスポーツ教室の開催など	B	継続	B	継続	
健康づくりの啓発 の推進	スポーツ講演会の開催(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学 習課
	ノルディックウォーキングの推進	B	継続	B	継続	
	食育推進事業(再掲) 母子保健の食育講座「ばくばくわんぱく教室」 第2次健康増進計画 ※H24策定 (健康まいばら21計画)	B	拡大	B	拡大	
	米原市民の健康づくり8か条の推進	B	継続	B	拡大	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
出前講座「気軽にやってみよう ニュースポーツ講座」参加者数	数値目標(a)	550人	310人	310人	310人	生涯学 習課
	実績数値(b)	270人	568人			
	達成率(c)(b/a)	49.1%	183.2%			
体育協会の加盟人数	数値目標(a)	3,100人	3,100人	3,100人	3,100人	

	実績数値 (b)	2,596 人	2,360 人		
	達成率 (%) (b/a)	83.7%	76.1%		
総合型地域スポーツクラブに占める女性会員の割合	数値目標 (a)	55%	60%	60%	60%
	実績数値 (b)	52.2%	52.2%		
	達成率 (%) (b/a)	94.9%	87.0%		

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>➢成人の途切れないスポーツ活動を支援するため、総合型地域スポーツクラブへの支援、体育協会への支援を行いました。</p> <p>➢総合型地域スポーツクラブにおいては会員が減少しているため、活動内容の周知など会員数を増やすような取組を行政・各スポーツクラブ・スポーツ関係団体と模索する必要があります。</p> <p>➢4つのスポーツクラブの連携を深め、地域住民の運動・スポーツに対するニーズに応える教室メニュー等の充実・開発が必要です。</p>	3
---	---

5:目標以上の効果があった 4:目標とおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目 (基本方針)	(2)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
中項目 (施策)	②高齢者のスポーツの推進
担当部局	生涯学習課、くらし支援課

■現状・問題点

<p>➢高齢化社会の進展により、高齢者の生きがいづくり、医療や介護にかかるコスト増大などが社会的な問題となっており、運動やスポーツの果たすべき役割は大きいと考えられているなか、あらゆる機会に高齢者が運動やスポーツに親しめる機会づくりが必要となっています。</p> <p>➢高齢者を対象に介護予防を目的とした運動教室や自宅でもできる体操の提供を行っています。また、モデル的に生活支援も合わせた運動の機会も設けています。</p> <p>➢身近な場所 (自治会公民館等) における運動教室を開催していますが、閉じこもり高齢者に対し運動の提供が不十分となっています。</p> <p>➢自宅で簡単にできる体操や個別で気軽に簡単に提供できるような運動の仕組みづくりが必要となっています。</p> <p>➢高齢者のスポーツの機会づくりのみならず、健康寿命の延伸を目的としたノルディックウォーキングを取入れています。</p>
--

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	担当部局
高齢者のスポーツの機会づくり	スポーツアドバイザーによる支援 (元気塾等への派遣)	A	継続	B	継続	生涯学

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29	H30	H31	担当部局
		進捗	新規・継続・拡大・廃止・進捗等			
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付(再掲) 高齢者教室の開催など	B	継続	B	継続	生涯学
	スポーツ推進委員によるスポーツ支援(再掲) ニュースポーツ体験	B	継続	B	継続	生涯学
	ノルディックウォーキングの推進(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学
	出前講座「気軽にやってみようニュースポーツ講座」(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学
	自治会単位での「歩楽るん教室」の開催	C	継続	B	継続	くらし
	通信型ウォーキング事業		新規	C	継続	支援課
まいばら体操の普及・啓発の促進	伊吹山テレビで「まいばら体操」の放送 DVDの配布、出前講座の開催による啓発	B	継続	B	継続	生涯学

A:目標以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
スポーツアドバイザーによるスポーツ支援イベント(元気塾等)の参加者数(延人数)	数値目標 (a)	500 人	500 人	500 人	500 人	生涯学
	実績数値 (b)	608 人	837 人			生涯学
	達成率 (%) (b/a)	121.6%	167.4%			生涯学
歩楽るん教室の参加者数(延人数)	数値目標 (a)	300 人	300 人	300 人	300 人	くらし
	実績数値 (b)	82 人	310 人			支援課
	達成率 (%) (b/a)	27.3%	103.3%			支援課

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>➢高齢者のスポーツ機会づくりのため、生涯学習課においては、スポーツアドバイザーを中心とした総合型地域スポーツクラブへの活動支援を行いました。</p> <p>➢高齢者のスポーツの機会づくりのみならず、健康寿命の延伸を目的としたノルディックウォーキングの普及推進により、市内でもノルディックウォーキング実践者を見かけられるようになっています。</p>	3
--	---

5:目標以上の効果があった 4:目標とおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目 (基本方針)	(2)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
中項目 (施策)	③障がいのある人のスポーツの推進
担当部局	社会福祉課、生涯学習課

■現状・問題点

<p>➢市内に障がい者スポーツ団体がないため、障がい者スポーツ大会への参加者数は少ないが、長浜養護学校や長浜北星高等養護に通学するの市内学生の参加が増えつつあります。</p> <p>➢障がい者スポーツに対する認知度はまだ高くありません。</p>
--

▶障がい者スポーツのイベント等について、伊吹山テレビの文字放送で周知を行う等、情報発信をしていますが、認知度が低く、より多くの市民による理解が必要となっています。
 ▶障がいのある人が、スポーツに気軽に参加できる環境づくりなどの支援が必要となっています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29		H30	H31	担当 部局
		進捗	継続	新規・継続・拡大・廃止・進捗等	継続	継続	
障がい者スポーツの機会づくり	滋賀県スペシャルスポーツカーニバル、障がい者スポーツ大会の参加受付・引率・スタッフ派遣・周知	B	継続	B	継続	継続	社会福祉課
	湖北スポーツカーニバルのスタッフ派遣・実行委員会への参加	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ推進委員によるスポーツ支援(再掲)	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	スポーツ推進検討委員会の開催(庁内の連携強化)	B	継続	C	継続	継続	
障がい者スポーツ普及の環境づくり	スポーツ選手大会出場激励金の交付	B	継続	B	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
滋賀県スペシャルスポーツカーニバルの参加者数	数値目標(a)	50人	55人	55人	60人	社会福祉課
	実績数値(b)	54人	54人			
	達成率(%) (b/a)	108%	98.2%			
スポーツ推進委員における初級障がい者スポーツ指導員の人数	数値目標(a)	2人	2人	2人	2人	生涯学習課
	実績数値(b)	1人	2人			
	達成率(%) (b/a)	50%	100%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶ニュースポーツは、障がいがある方もない方も、取り組めるスポーツですが、障がいのある方がニュースポーツに気軽に参加できる環境は十分に整っていない現状があります。 ▶市関係部局が連携を図り、障がいがある方の支援者で、ニュースポーツのルールを習得した者を増やす必要があります。</p>	<p>評価</p> <p>3</p>
--	---------------------------

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

(3) 地域スポーツ活動の充実

■指標

総合型地域スポーツクラブの会員数

現状値	目標値	目標値
平成29年度 1,138人	平成30年度 1,500人	平成35年度 1,800人

大項目(基本方針)	(3) 地域スポーツ活動の充実
中項目(施策)	① 総合型地域スポーツクラブの活動支援
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

▶総合型地域スポーツクラブ活動は、地域のスポーツ振興を担う重要なものですが、その活動内容等を知らない市民も多い状況です。
 ▶総合型地域スポーツクラブ会員を増やために、市民の運動やスポーツに対するニーズを把握し、魅力あるスポーツ教室等を行うことで、会員を増やす必要があります。
 ▶総合型地域スポーツクラブと各種団体との連携が不足しているため、これら団体間の連携を強めていくことも重要です。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29		H30	H31	担当 部局
		進捗	継続	新規・継続・拡大・廃止・進捗等	継続	継続	
総合型地域スポーツクラブの運営支援	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	体育施設の指定管理などによる運営支援	B	継続	B	継続	継続	
総合型地域スポーツクラブ間の連携強化	クラブマネージャー会議における連携	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	市・県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会における連携	B	継続	B	継続	継続	
	イベント開催時における総合型クラブの連携、啓発 健康ウォークなど	B	継続	B	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
総合型地域スポーツクラブの会員数	数値目標(a)	1,400人	1,400人	1,500人	1,500人	生涯学習課
	実績数値(b)	1,143人	1,138人			
	達成率(%) (b/a)	81.6%	81.3%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶総合型地域スポーツクラブへの支援として、補助金による教室等の事業実施の支援、体育施設の指定管理委託による財政基盤の強化支援を実施したほか、マネージャー会議や</p>	<p>評価</p> <p>3</p>
--	---------------------------

連絡協議会の開催による協議検討を行っています。 >会員数の増加を目指し、地域住民のスポーツ・運動に対するニーズに応えるメニューの充実・開発が行えるよう支援を行うとともに、総合型地域スポーツクラブの活動広報等継続的に実施する必要があります。
--

5:目標以上の効果があった 4:目標とおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(3)地域スポーツ活動の充実
中項目（施策）	②スポーツ団体の活動支援
担当部局	生涯学習課、自治振興課

■現状・問題点

- >体育協会および加盟団体が主催するイベントに、市民の約4割が参加していないため、イベントを周知するなど、市民スポーツの裾野を広げていく必要があります。
- >市民の運動・スポーツの機会や機運の高まりの受け皿となり、市内のスポーツ団体をけん引するスポーツ推進拠点の在り方や体制などの方向性を検討する必要があります。
- >自治会においてスポーツを推進していくよう体育振興員などと連携し、さらに地域のスポーツ活動を充実させていく必要があります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目（施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・拡充・廃止・中止等				担当部局
			H28	H29	H30	H31	
スポーツ発信拠点づくり 市内の各種スポーツ団体の運営支援	スポーツ推進計画の改定に合わせ、発信拠点のあり方等の議論を深める	C	継続	D	継続	継続	生涯学習課
	体育協会補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ少年団補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
自治会におけるスポーツの推進	伊吹山麓スポーツ文化振興事業団補助金	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課 自治振興課
	自治会におけるスポーツコミュニティへの理解、実践	B	継続	B	継続	継続	
	体育振興員によるスポーツ支援・自治会へのスポーツ活動協力依頼(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
	いきいき健康ウォークの開催 自治会への参加の呼びかけ	B	継続	B	継続	継続	興課

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
体育協会の加盟人数(再掲)	数値目標(a)	3,100人	3,100人	3,100人	3,100人	生涯学習課
	実績数値(b)	2,596人	2,360人			
	達成率(%) (b/a)	83.7%	76.1%			
総合型地域スポーツ	数値目標(a)	1,400人	1,400人	1,500人	1,500人	

クラブの会員数(再掲)	実績数値(b)	1,143人	1,102人		
	達成率(%) (b/a)	81.6%	78.7%		
スポーツ少年団の団員数(再掲)	数値目標(a)	480人	480人	480人	480人
	実績数値(b)	490人	438人		
	達成率(%) (b/a)	102.8%	91.3%		

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

>体育協会・スポーツ少年団の事務局運営や補助金による支援を行っています。	評価
>市民の運動・スポーツの機会や機運の高まりの受け皿となり、市内のスポーツ団体をけん引するスポーツ推進拠点の在り方や体制づくりに向けた協議が不十分です。	
	3

5:目標以上の効果があった 4:目標とおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(3)地域スポーツ活動の充実
中項目（施策）	③スポーツ団体などの連携の強化
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

- >市内には各種スポーツ団体がありますが、連携が不十分で、各団体の役割が見えにくい状況にあります。
- >各種スポーツ団体を構成員とする体育協会の事務局機能を行政が担っている状況にあり、組織体制を見直し、強化につなげる必要があります。
- >今後、市内の各種スポーツ団体の連携を強化し、効果的な取組の展開が求められています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目（施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・拡充・廃止・中止等				担当部局
			H28	H29	H30	H31	
市内の各種スポーツ団体などの連携強化支援	スポーツ推進審議会の開催	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
スポーツに関する情報共有、連絡調整体制の強化	スポーツ推進計画の改定に合わせ、スポーツ発信拠点機能のあり方等の議論を深める(再掲)	C	継続	D	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
スポーツ推進審議会の開催回数	数値目標(a)	2回	2回	5回	2回	生涯学習課
	実績数値(b)	2回	2回			
	達成率(%) (b/a)	100%	100%			

スポーツ発信拠点の整備に向け た取組	数値目標 (a)	検討	検討	検討	検討	
	実績状況 (b)	検討	検討			
	達成率 (%) (b/a)	-	-			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶各種スポーツ団体を統括する体育協会の事務局機能を行政が担っているため、協会の独立性や独自性が低いと言えます。体育協会がスポーツの専門性を発揮できるような体制を見直し、各種スポーツ団体間のパイプ役をなすよう体制強化が必要です。</p> <p>▶市民の運動・スポーツの機会や機運の高まりの受け皿となり、市内のスポーツ団体をけん引するスポーツ発信拠点機関の在り方や体制等の方向性の協議検討する必要があります。</p>	評価 1
---	-------------

5:目標以上の効果があった 4:目標と同等の効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目 (基本方針)	(3)地域スポーツ活動の充実
中項目 (施策)	④スポーツに関わる人材の育成
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

<p>▶スポーツ推進委員は、地域のスポーツ活動を推進する中心的な役割を担うため、その活動を支援し、新たな人材を発掘していく必要があります。</p> <p>▶市内の各種スポーツ団体において、指導者不足が問題になっており、指導者の育成が求められています。</p> <p>▶二巡目滋賀国民体育大会に向け、選手および各種イベントや大会を支える人材の育成が必要となっています。</p> <p>▶自治会の体育振興員など、地域のスポーツ指導者については十分活躍できていない現状があります。</p>

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29		H30	H31	担当 部局
		進捗	新規・継続	拡大・中止・進捗等			
スポーツ推進委員 による研修活動の 推進	スポーツ推進委員による実技研修 の開催	B	継続	B	継続	継続	生涯学 習課
	滋賀県スポーツ推進委員研修会へ の参加	B	継続	B	継続	継続	
	近畿スポーツ推進委員協議会 への参加	B	継続	B	継続	継続	
	全国スポーツ推進委員協議会 への参加	B	継続	B	継続	継続	
	新規委員の発掘 体育振興員との交流 選考委員の開催	B	継続	B	継続	継続	

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29		H30	H31	担当 部局
		進捗	新規・継続	拡大・中止・進捗等			
地域のスポーツ 指導者の育成	スポーツ推進計画の改定に合わ せ、発信拠点のあり方等の議論を深 める(再掲)	C	継続	D	継続	継続	
	スポーツアドバイザーの育成・支援	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ少年団指導者協議会の立 ち上げに向けた検討	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ少年団女性指導者会の開 催(再掲)	C	継続	C	継続	継続	
指導者登録 制度の活用・導入	スポーツアドバイザーの登録 促進	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ少年団指導者協議会の立 ち上げ(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
指導者登録 制度の活用・導入	スポーツ少年団指導者協議会の立 ち上げ(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
スポーツボランティア の育成および活 動の機会の創出	各種スポーツイベントを通じたスポ ーツボランティアの育成	B	継続	B	継続	継続	
顕彰などによるス ポーツ選手の支援	スポーツ選手大会出場激励金の交 付(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
	スポーツ顕彰表彰式の開催	B	継続	B	継続	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	担当 部局
スポーツ推進委員の数	数値目標 (a)	35 人	35 人	35 人	35 人	
	実績数値 (b)	31 人	31 人			
	達成率 (%) (b/a)	88.5%	88.5%			
スポーツアドバイザーの 任用	数値目標 (a)	2 人	2 人	2 人	2 人	
	実績数値 (b)	2 人	2 人			
	達成率 (%) (b/a)	100%	100%			
スポーツ少年団指導者 協議会の立ち上げにむ けた会議の開催	数値目標 (a)	2 回	2 回	2 回	2 回	
	実績数値 (b)	2 回	2 回			
	達成率 (%) (b/a)	100%	100%			
スポーツ少年団指導者 数	数値目標 (a)	125 人	130 人	130 人	130 人	
	実績数値 (b)	111 人	113 人			
	達成率 (%) (b/a)	88.8%	86.9%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶スポーツ推進委員は、地域のスポーツ活動を推進する中心的な役割を担うため、地域における運動・スポーツのコーディネート機能や、マネジメント機能として役割を期待します。</p> <p>▶市内の各種スポーツ団体において、指導者不足が問題になっており、「スポーツ指導者ネ</p>	評価 3
--	-------------

ットしが」を活用するなど、指導者の育成が求められています。

➢二巡目滋賀国体に向け、選手および各種イベントや大会を支える人材やボランティアの育成が必要となっています。

➢自治会の体育振興員など、地域のスポーツ指導者については十分活躍できていない現状があります。スポーツ少年団の指導者においても、単位団ごとの指導には力を入れているが、市のスポーツ少年団事業にはやや消極的です。

5:目標以上の効果があった 4:目標とおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

(4) スポーツを身近に楽しめる環境づくり

■指標

スポーツの推進満足度



※米原市民意識調査

大項目（基本方針）	(4)スポーツを身近に楽しめる環境づくり
中項目（施策）	①スポーツに親しむ機会づくり
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

- いつでも、どこでも、誰でも、いつまでもスポーツを身近に親しめる機会の創出が求められています。
- スポーツ推進委員やスポーツアドバイザーによる活動を拡充し、市民のスポーツ活動を支援していく必要があります。
- スポーツを推進する一方で、スポーツにおける安全管理を推進する必要があります。
- スポーツ推進庁内検討委員会の中で、関係部署が連携したより充実した活動が展開できるよう協議を進めていく必要があります。
- 市民のスポーツや運動の実施の動機付けとなるような、スポーツに親しむ全市民的な機会や催しなどが少ない状況にあります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28	H29			担当 部局
		進捗	新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	
身近にスポーツが できる機会の創出	出前講座「エンジョイ♪まいばらっこ」の開催(再掲)	B	継続	B	廃止	生涯学 習課
	出前講座「気軽にやってみようニュースポーツ講座」(再掲)	B	継続	B	継続	
	総合型地域スポーツクラブ補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28	H29			担当 部局
		進捗	新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	
新 学校体育施設の一般開放	米原スポーツの日イベント	B	継続	B	継続	政策推 進課
		-	新規	A		
スポーツ推進委員、スポーツアドバイザーによる地域スポーツ活動の充実	スポーツ推進検討委員会の開催(再掲) (庁内の連携強化)	B	継続	C	継続	
スポーツの安全管理の推進	スポーツ安全保険への加入促進	B	継続	B	継続	
	体育施設へのAED設置、応急措置講習会の開催の促進	B	継続	B	継続	
	熱中症予防講習会の開催 スポーツ少年団 夢高原かつび伊吹	B	継続	B	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標	H28	H29	H30	H31		
出前講座「気軽にやってみようニュースポーツ講座」参加者数(再掲)	数値目標(a)	550人	310人	310人	310人	生涯学 習課
	実績数値(b)	270人	568人			
	達成率(c)(b/a)	49.1%	183.2%			
熱中症予防講習会の開催回数)	数値目標(a)	2回	2回	2回	2回	
	実績数値(b)	1回	1回			
	達成率(c)(b/a)	50%	50%			
社会体育施設利用登録団体数	数値目標(a)	100	100	100	100	
	実績数値(b)	99	85			
	達成率(c)(b/a)	99%	85%			

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

評価
<p>➢ニュースポーツの出前講座については好評で、恒例的に依頼のある団体はあるものの、出前講座時のみ実施となっている現状にある。出前講座受講後にルール習得者による継続的なニュースポーツ実施には至らず普及につながっていない現状にあります。このためニュースポーツの出前講座の手法を見直す必要がある。</p> <p>➢米原スポーツの日イベントは、「Maibara×Aogaku 駅伝」として、青山学院大学陸上競技部の原監督を講師に招いた講演会の開催と、市内小中学生や高校、一般の部の駅伝イベントを開催した。</p>
3

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(4)スポーツを身近に楽しめる環境づくり
中項目（施策）	②スポーツ観戦の機会づくり
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

- ▶市内で、県レベル、全国レベルのスポーツ大会等が開催されていますが、多くの市民がスポーツを観戦する機会となっていない現状があります。
- ▶観るスポーツの観点から、スポーツ観戦や応援は、スポーツに取り組みきっかけとなり、技術力の向上にも役立つため、市民に感動を与えることのできるスポーツ観戦の機会づくりが重要となっています。
- ▶東京オリンピック・パラリンピックにおいて登録された、ニュージーランドを相手国としたホストタウンとして、スポーツを通じた交流を検討・推進する必要があります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目（施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・観戦・拡大・廃止・進捗等		H30	H31	担当部局
トップアスリートとの交流の機会づくり	トップアスリート交流事業(再掲)	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	ホストタウン事業	B	継続	B	継続	継続	
スポーツ観戦の推進	西日本ホッケー大会補助金	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	国民体育大会ホッケー競技近畿ブロック大会補助金（6年ごと）	-	-	-	-	-	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
トップアスリート交流事業の参加者数	数値目標(a)	200人	1,500人	1,500人	1,500人	生涯学習課
	実績数値(b)	1,461人	1,077人			
	達成率(c)(b/a)	730%	71.8%			

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

▶元日本代表選手が多数出場した全国マスターズホッケー大会の開催支援を行い、スポーツ観戦の機会づくりを行った。	評価
▶今後のホストタウン事業の推進に向けて、ニュージーランドのホッケー関係者を当市に招き、スポーツ交流について協議を行いました。	
	3

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(4)スポーツを身近に楽しめる環境づくり
中項目（施策）	③スポーツ施設の充実
担当部局	生涯学習課、防災危機管理課

■現状・問題点

- ▶スポーツの在り方検討委員会の答申では、市民が手軽に利用できる地域密着型の施設整備が提言されており、いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも気軽にスポーツができる環境づくりが求められています。また、防災的観点からも、地域密着型のスポーツ施設の整備が必要です。
- ▶スポーツ施設において、指定管理者制度など、民間のノウハウを生かした効率的な管理が必要です。
- ▶身近にスポーツができる場を提供するため、学校開放施設を利用しやすい仕組みづくりが必要です。
- ▶年間約5万人のピロイチ利用があり、各市に拠点が整備されつつあり各市町と連携を取りながら広域的なルート設定が必要です。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目（施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・観戦・拡大・廃止・進捗等		H30	H31	担当部局
スポーツ施設の整備・拡充	米原サイクルステーション運営事業	B	継続	B	継続	継続	防災危機管理課
	社会体育施設・学校開放施設の適切管理・整備・充実	B	継続	B	継続	継続	生涯学習課
	番場多目的広場造成工事	設計	工事	B	完了		
スポーツ施設の効率的な運営	体育施設の指定管理などによる運営支援(再掲)	B	継続	B	継続	継続	防災危機管理課 生涯学習課
学校体育施設の活用	学校体育施設の一般開放(再掲)	B	継続	B	継続	継続	
災害に強い地域密着型スポーツ施設の整備	スポーツ施設における総合防災訓練の受入・実施	B	継続	B	継続	継続	防災危機管理課 生涯学習課
	国体の開催に向けた施設整備の充実	B	内定	B			
国体の開催に向けた施設整備の充実	二巡目滋賀国体等に向けた受入競技種目の検討	B	内定	B			生涯学習課
	伊吹第1グラウンド改修工事		設計	B	工事		

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の数値が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
社会体育施設利用者数(学校体育施設を除くグラウンド、体育館、プール、野球場、グラウンドゴルフ場等)	数値目標(a)	150,000	160,000	160,000	160,000	生涯学習課
	実績数値(b)	145,558	140,304			
	達成率(c)(b/a)	97.04%	87.7%			

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

▶まいばら協働提案事業で支援した「マイクリング」の活動により、市外からサイクリングの地として米原市は高い評価を得ている。また平成28年10月に整備された米原駅東口のサイクルステーションやピロイチとの相乗的な効果が出るような整備が必要であります。	評価
	3

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(4) スポーツを身近に楽しめる環境づくり
中項目（施策）	④ スポーツ情報の発信
担当部署	生涯学習課

■現状・問題点

- ▶ スポーツに親しむ市民を増やすため、「する・みる・支える」スポーツに関する情報を、様々な媒体により効果的に発信する必要があります。
- ▶ 関係各課の連携を深め、スポーツや運動に関する取組について情報を共有し、積極的に発信していく必要があります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	担当 部署
多様な媒体を活用したスポーツ情報の発信	広報まいばらによる情報発信 特集記事によるスポーツ情報の掲載 市公式WEBサイトによる情報発信	B	継続	B	継続	生涯学 習課
	伊吹山テレビを活用した情報発信 特集、文字放送など	B	継続	B	継続	
	SNSを活用した効果的な情報発信 Facebook など	B	継続	B	継続	
	庁内の連携強化による分かりやすい情報の発信	B	継続	C	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
各種広報媒体による情報発信数 (広報紙、WEB サイト、CATV、SNS、機関紙)	数値目標(a)	35回	50回	55回	60回	生涯学 習課
	実績数値(b)	66回	52回			
	達成率(c) (b/a)	188.6%	104%			

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

▶ スポーツ情報の発信については、広報まいばらをはじめ、市公式ウェブサイト、伊吹山テレビ、SNSなど複合的な発信を行ったが、継続的な叙情発信、市民のスポーツに対するニーズを把握し、それに応じた情報発信を行う必要があります。	評価
	3

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組-効果が十分でない 1:取組を見出す必要がある

(5) 米原らしさを生かしたスポーツの推進

■指標

地域でのスポーツ活動参加率

現状値 平成 25 年度 50%	目標値 平成 30 年度 55%	目標値 平成 35 年度 60%
------------------------	------------------------	------------------------

※H25 年市民アンケート

大項目（基本方針）	(5) 米原らしさを生かしたスポーツの推進
中項目（施策）	① 米原の特性を生かしたスポーツの推進
担当部署	生涯学習課

■現状・問題点

- ▶ 米原市の豊かな自然環境や立地条件を生かし、参加者の満足度を高めるために、市民ニーズに対応したイベントを開催し、参加者増加につながる取組が求められています。
- ▶ 伊吹山や琵琶湖など米原市の地域資源を活用した、市民が身近に楽しめるスポーツの展開が重要で
- ▶ 米原市で培われてきたスポーツをはじめ、広く市民に親しまれている地域に根ざしたスポーツを支援していく必要があります。
- ▶ 健康ウォークを継続的に開催しているが、参加者が広がるよう内容等を検討する必要があります。
- ▶ 米原市のスポーツの中心となる競技はホッケーであるが、競技人口の増加には至っていない状況にあります。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	担当 部署
米原の豊かな自然を生かしたスポーツの推進	夢高原かつび伊吹の開催	B	継続	B	継続	生涯学 習課
	いきいき健康ウォークの開催(再掲)	B	継続	B	継続	
	カヌー体験事業(再掲) カヌー貸出事業 びわこマリンフェスタ	B	継続	B	継続	
	伊吹山登山の普及、推進 スポ少伊吹山登山の開催	B	継続	C	継続	
	まいばら入江干拓マラソンへの支援	B	継続	B	継続	
	サイクリング事業 市民協働事業マイクリングプロジェクト	B	継続	B	廃止	
	地域に根ざしたスポーツの推進	スポーツ少年団補助金の交付(再掲)	B	継続	B	
体育協会補助金の交付(再掲) 市民スキー大会の開催	B B	継続 継続	B B	継続 継続		

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
夢高原かつび伊吹の参加	数値目標(a)	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	生涯学 習課

者数	実績数値 (b) 達成率 (%) (b/a)	1,166 人 97.2%	1,128 人 94%			習課
いきいき健康ウォークの参加者数	数値目標 (a)	300 人	300 人	300 人	300 人	
	実績数値 (b) 達成率 (%) (b/a)	230 人 76.7%	154 人 51.3%			
カヌー体験事業・びわこマリンフェスタの参加者数	数値目標 (a)	50 人	50 人	50 人	50 人	
	実績数値 (b) 達成率 (%) (b/a)	中止 -	51 人 102%			
市民スキー大会の参加者数	数値目標 (a)	100 人	100 人	100 人	100 人	
	実績数値 (b) 達成率 (%) (b/a)	30 人 30%	56 人 56%			
まいばら入江干拓マラソンの参加者数	数値目標 (a)	1,000 人	1,000 人	1,000 人	1,000 人	
	実績数値 (b) 達成率 (%) (b/a)	1,029 人 102.9%	1,161 人 116.1%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶姉川ダムや琵琶湖でのカヌー体験やマリンフェスタは定員を超える応募者があり、参加者からも好評を得ています。</p> <p>▶米原市で培われたホッケーの競技人口拡大や競技力の向上を支援し、市のスポーツ推進をけん引する中心的な競技としての位置を確立させる必要があります。</p> <p>▶市民を対象としたいきいき健康ウォークについては、スポーツや運動だけでなく、健康づくりの含めた、より魅力的な内容となるよう工夫していく必要があります。</p>	<p>評価</p> <p>3</p>
---	--------------------

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目 (基本方針)	(5)米原らしさを生かしたスポーツの推進
中項目 (施策)	②競技スポーツの推進
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

<p>▶ホッケーなど競技スポーツに対する支援を行い、競技レベルの維持、向上に努める必要があります。</p> <p>▶ライフステージが進展しても、スポーツが続けられる環境を整備し、競技力の向上につなげていく必要があります。</p> <p>▶トップアスリートとの交流、トップレベルの選手が地域に戻り指導者としても活躍する環境、競技スポーツに関わる地域の人材の活用など、地域において、「スポーツの好循環」を生み出していくことが求められています。</p>

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 (施策の方向)	取組内容・進捗状況	H28	H29	H30	H31	担当部局
		進捗	新規・継続・拡大・中止・見直し等			
トップレベルの競技会開催支援	トップアスリート交流事業(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学習課
	西日本ホッケー大会補助金(再掲)	B	継続	B	継続	
	国民体育大会ホッケー競技近畿ブロック大会補助金(再掲)(6年ごと)	-	-	-	-	
ジュニアアスリートの発掘・育成	滋賀県ジュニアアスリート発掘事業の周知	B	継続	B	継続	
競技スポーツの支援・促進	体育協会補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	
	スポーツ少年団補助金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	
競技スポーツの支援・促進	スポーツ選手大会出場激励金の交付(再掲)	B	継続	B	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
トップアスリート交流事業の参加者数(再掲)	数値目標 (a)	200 人	1,500 人	1,500 人	1,500 人	生涯学習課
	実績数値 (b)	1,461 人	1,077 人			
	達成率 (%) (b/a)	730%	71.8%			
スポーツ少年団の団員数(再掲)	数値目標 (a)	480 人	480 人	480 人	480 人	
	実績数値 (b)	490 人	438 人			
	達成率 (%) (b/a)	102.1%	91.3%			
体育協会の加盟人数(再掲)	数値目標 (a)	3,100 人	3,100 人	3,100 人	3,100 人	
	実績数値 (b)	2,596 人	2,360 人			
	達成率 (%) (b/a)	83.7%	76.1%			
国際大会出場者(トップアスリート)の人数	数値目標 (a)	5 人	5 人	5 人	5 人	
	実績数値 (b)	7 人	6 人			
	達成率 (%) (b/a)	140%	120%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶ホッケーにおいては、小学校からマスターズまでのライフステージに応じ、継続した競技環境があり、各年代カテゴリーでも全国等で優勝をはじめ上位入賞を継続しています。</p> <p>▶体育協会やスポーツ少年団、各スポーツ団体の横のつながりのほか、競技スポーツごとによる年代を超えた縦のつながりを強化する取組を検討する必要があります。</p>	<p>評価</p> <p>3</p>
--	--------------------

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(5)米原らしさを生かしたスポーツの推進
中項目（施策）	③次期国体開催に向けた機運の醸成
担当部局	生涯学習課

■現状・問題点

- 二巡目滋賀国民体育大会と受入競技となったホッケー競技の、市民に対する周知や啓発が十分ではなく、国民体育大会に対する米原市全体の機運が高まっています。
- 国民体育大会の成功に向けて、市民のスポーツ意識を高め、地域のスポーツ振興や多くの市民がスポーツに親しむ雰囲気や環境づくりが求められています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	担当部局
国体を見据えた指導者の育成	スポーツ少年団指導者協議会の立ち上げにむけた検討(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学習課
国体に向けた機運の醸成	自治会におけるスポーツコミュニティへの理解、実践(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学習課
	国体に関する各種団体等への情報提供	B	継続	B	継続	
国体開催に向けた環境づくり	二巡目滋賀国体等に向けた受入競技種目の検討(再掲)	B	継続	B		生涯学習課
	伊吹第1グラウンド改修工事(再掲)		設計	B	工事	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■成果指標

指標		H28	H29	H30	H31	
国体でのホッケー競技開催に向けた会議の開催または会議への出席	数値目標(a)	2回	2回	3回	3回	生涯学習課
	実績数値(b)	3回	4回			
	達成率(%) (b/a)	150%	200%			

■評価の内容（行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価）

➢二巡目滋賀国民体育大会の受入競技としてホッケーの内定されたことを受けて、開催に向けた会議および協議を行った。	評価
➢二巡目滋賀国民体育大会およびホッケー競技開催が、市民のスポーツへの関心や健康づくりの契機となるよう期します。	
	3

5:目標以上の効果があった 4:目標通りの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある

大項目（基本方針）	(5)米原らしさを生かしたスポーツの推進
中項目（施策）	④スポーツを通じたまちづくりの推進
担当部局	生涯学習課、歴史文化財保護課、自治振興課

■現状・問題点

- 観光振興、地域活性化の重要な要素として、全国的にスポーツ・ツーリズムの概念が認識されはじめており、地域の魅力資源や特性を生かしたスポーツ・ツーリズムの展開が求められています。
- 東京オリンピック・パラリンピック、二巡目滋賀国民体育大会など、スポーツが盛り上がるとみられる機運を活用し、スポーツを通じた政策的まちづくりが求められており、関係各課、関係団体との連携が必要となっています。
- 地域の魅力資源を活用するため、サイクリングやウォーキングなどを通じ、市内の歴史遺産や景観・文化財巡りなどを企画していくことが必要です。
- スポーツ大会を通じ、観光政策としての戦略的な視点を強化し、市内の観光や宿泊に結びつけるための広報啓発と具体的な取組が必要となります。
- ホストタウン交流事業により、ホッケーなどスポーツを通じたまちづくりを進めています。

■取組内容、進捗、スケジュール

小項目 （施策の方向）	取組内容・進捗状況	H28 進捗	H29 新規・継続・拡大・廃止・進捗等	H30	H31	担当部局
地域の魅力資源などを生かしたスポーツ・ツーリズムの展開	夢高原かつび伊吹の開催(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学習課
	まいぼら入江干拓マラソンへの支援(再掲)	B	継続	B	継続	
	歴史講座(市内探訪)	B	継続	B	継続	
スポーツを通じた市民協働によるまちづくりの推進	市民協働事業(再掲) マイクリングプロジェクト	B	継続	B	廃止	生涯学習課 自治振興課
	スポーツ推進計画の改定に合わせ、発信拠点のあり方等の議論を深める(再掲)	C	継続	D	継続	
市民総スポーツの推進	自治会におけるスポーツコミュニティへの理解、実践(再掲)	B	継続	B	継続	生涯学習課 自治振興課
	ホストタウン推進事業(再掲)	B	継続	B	継続	

A:計画以上の取組を完了 B:計画の取組を完了 C:計画の取組が一部未完了 D:計画の取組が未完了

■個別指標

指標		H28	H29	H30	H31	
夢高原かつび伊吹の参加	数値目標(a)	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人	生涯学習課

者数(再掲)	実績数値 (b) 達成率 (c) (b/a)	1,166 人 97.2%	1,128 人 94%			習課
まいばら入江干拓マラソンの 参加者数(再掲)	数値目標 (a)	1,000 人	1,000 人	1,000 人	1,000 人	
	実績数値 (b)	1,029 人	1,161 人			
	達成率 (c) (b/a)	102.9%	116.1%			

■評価の内容 (行政・各種団体・市民等がすべき取組に対する評価、個別指標に対する評価)

<p>▶まいばら協働提案事業で支援した「マイクリング」の活動により、市外からサイクリングの地として米原市は高い評価を得ています。この市外からの評価が市民スポーツを通じたまちづくりの動機づけとなる期待します。</p> <p>▶一巡目滋賀国民体育大会の開催を、市民のスポーツに対する機運を高め、スポーツを通じたまちづくりの推進する契機とするために、準備段階から市民や自治会、関係団体を巻き込んだ仕組みや仕掛けづくりが必要です。</p>	<p>評価</p> <p>3</p>
---	--------------------

5:目標以上の効果があった 4:目標どおりの効果があった 3:一定の効果があった 2:取組・効果が十分でない 1:取組を見直す必要がある